

雙魚堂日誌
大正九年
九月以降

特別
14
1919
580



176845

〇九月

一日

星無風、二日十日、朝斗寸本満千、
路と録し、又出版部書庫、
竣工祝を为す件、
苗池、
芳、
午後、

雙魚堂日記

大正九年九月以降



出野柳子と書きたる書

二日

曇、山の所迄耳法、寸路印講一贈ふ也、
以花の山所と扱ふ事あり、此海、此書
此を托し、梅樹寸本番五個(ヤ、大、三、口)
出来別を、此分を心寸法お事、のしく大
きく出来し事、午後驟雨あり、書後益の
勢あり、雷鳴次ぐ、左、既、河、河、内、多、事、也、
此、秋、を、め、り、し、り、ち、物、代、上、土、田、金、子、南、衣、
、金、十、四、日、三、十、三、日、武、素、田、事、は、松、待、待、費、

田中惟一守三郎、掛海、高木、不、暇、書、
状をとり、す、

三日

小雨、坂上弘為、自ら診候、おと、泡射を施し、
去る、空、舟、舟、北、中、刻、碑、料、を、主、三、行、
廿八日、郵、送、す、河、内、く、く、事、者、が、久、江、年、一、
来、脚、事、功、経、て、高、の、年、得、来、功、千、幣、
を、共、り、し、七、的、名、法、す、主、江、香、松、内、朝、の、候、
扱、し、事、下、午、後、形、聖、事、扱、を、贈、心、神、
田、の、者、此、と、功、心、四、谷、三、河、尾、飯、一、七、之、

の、高木順三扶誠おろし、或者、粉米大
而あり

四〇

雨、月朔、舟骨董、固方、と整理す、古池
舟、寸帳、代末、掛、廿二、田、掛、り、合、舟、八、朔
し、自、畫、の、り、と、事、を、言、せ、り、あ、る、り、及、至
外、南、華、を、文、説、と、讀、み、起、事、の、四、五、節
と、抄、り、早、大、起、之、科、一、説、を、記、述、し、来、り、は
少、強、の、報、り、一、報、入、外、物、者、一、課、者、を、務
め、短、鏡、を、名、し、一、課、者、を、抄、り、と、前、日、と

裁判所、一、換、り、と、記、し、七、刀、を、扱、き、斬、り、つ
け、り、狂、人、を、追、り、何、ん、を、狂、人、の、宣、吏、に、福、を
与、り、の、短、く、な、り、高、き、り、高、り、中、内、自、執、平
し、之、を、事、の、回、乘、り、紅、屋、船、に、到、り、飲、ぶ、雨
あ、り、り、と、改、り、

吾

日曜

田、迄、取、り、中、り、り、山、若、野、野、山、万、徒、と、終、り
り、日、出、り、り、法、院、に、西、村、其、次、来、り、其
若、野、文、然、吟、諸、和、船、を、路、り、り、高、り、り、
の、中、降、一、り、り、炭、五、十、徒、り、り、り、

運賃十四圓餘お取戻す、午後船出瑞子
船誤り、内子急を付のち中へく海へ行
く、路の此所雜録を兼す。

言

曇、不用雜録今の路高、木乃、其印の
為の老々、凡二十三日也、少物等、今、本訪



古池印とおろすも、杏不、家而、印、
所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、
五、四、三、二、一、
ある、村井、吉兵衛、田村、宗三、印、
中山、海、泊、川、中、浮、降、一、
を、返、り、来、り、小、澤、木、田、崎、
午後、今、社、に、到、り、事、と、
出、版、部、に、到、り、新、采、金、庫、
を、返、り、改、反、井、内、西、志、の、

七日

皇天、廣井一平流十の印刷会社に、利午後
迄重役會に臨み、國原権三郎の場を論議集
成稿を授けしこと見ゆ。日印木村徳衛（醫子
博士）：往き診察せしめて之を、此の石塚
とて梨果を記し、合社新購の土地、地
の以て是を建築を為すに付一旦暫くを却りて
言を決し大組の設計を以つて其所の認可
を得るを以て、今の市役所、幾々の勘論に
り并調と決し、来たる森友二名と共、
考議油壺をぬす事とせらる。

八日

兩、自傳の年表を修む。以て國者協会の
不用カードを考ひ、植木倉田中、
考議を以て、國者協会の注釈、今由
日通煤業の、少文江を報き、合社の建築
問題の協定、田中、此の間に、約手の
裏面を報き、共濟生、余任、合社、納附
り、森友、合社、森友、丹美、二名、平
三、友、大、ら、一、り、十、年、者、午、後、骨、董
目録を以て、成り、合、時、多、の、昂、不、量、略、血、急
二、動、向、を、報、き、手、高、り、を、為、す

九日

曇天、雨ありし、雷はあり、土池来り、不用書函三紙、勘定の中へ遺す、八月一日、河内あり、書信、四、博士の消息と接す、関古らへ、物子起す、何れの細方別、日清印刷会社、別、り、改を、本、其、他、も、終、と、前、の、手、後、何、し、し、物、を、も、手、通、建、築、の、件、を、再、議、午、後、山、名、表、を、各、に、托、し、小、品、方、函、紙、改、其、出、来、房、院、又、小、量、以、血、前、田、来、診、又、骨、董、目、録、を、修、む、保、政、社、者、の、死、と、聴、く、二、所、心、深、更、く、為、也、三、十

八方と組む、

十日

二万廿〇無風、冷氣激増、保政社、去、死、を、身、胖、沈、交、悔、状、を、見、す、村、井、銀、り、二、万、四、千、金、額、と、約、小、(四、中、作、新、出、約、千、六、十、り、也)又、家、庭、骨、董、目、録、を、修、む、約、千、期、〇、十一月八日也、岡原、堆、場、台、の、用、え、を、本、誌、に、用、文、次、中、へ、遺、す、海、老、の、銅、鑊、子、を、終、り、〇、母、重、孝、壽、紀、念、券、也、昆、島、謝、状、を、見、す、向、子、之、留、金、五、十、四、海、海、本、心、珠、臨、客

を邦の之組練の法帖、寛文版有籍目録を購
ふべくして、向年函に届ふ、十五日早大維持
員等廿五日日本石浦臨時の候分函に届到り
終夜降雨、湯の深更又こ、若返三十八日
五令に到り

十一日

雨冷氣甚し、朝より骨蒸を捨し、前のこ
引つ、き目録を心る、午後借ひお出せぬのこ
地と訪ひ二三の施をを購ふべくして

十二日

快明朝、身念心の唐詩とあり、ちり紙あり
来前、出せ物と云、吹家の件より来流、十日よ
りお出せ子と付あり、船中の松村、眼鏡
二個改札を托す、二三物を購ひ、松表に飯
一こく、飯五卷、身流、睡七、林村、お出
せあり、

十三日

曇天、朝斗物を懸記す、ちり紙あり、約午三
十日、期成より又々、二十日、間刻り

了、松宮重吉の用を最年交付す。正
原惟永の用、午後家名を佳敷兼とし、
方名を仍し姓をを贈りて之を、養正兼吉
才二明二面分其冊記をを受く、高橋正衛の
訃到る、病况漸く順境

十四日

陰久米邦武：郵志を記す、坂上弘房
の注射を施す、文の協合海濱集の
巻頭言を納し協名を送る、新印の八中
年令：松正石里の陸軍と祝する等

多断り状を出す、午後佳吉を先を待たせ
敷兼満洲に流動させ、祝相又り物
尾、松正石里あり

十五日

由、早朝高橋正衛の社を伊予春を記す、来訪
一名二千部、記念紙、余り在死中の
追憶話をとと、流して之を、物と給
く、坂上五峰来訪、傳道院に高橋正衛の
儀に臨み、石波、故一、合し、拉して、由書、
時款、午後出遊部の午後、後、臨み

りつと早稲田大子の雄指負合：出島

十七方

西朝来合雅を柳保、高田信之と云方ニ子
雅：登載の法流の船を囑す、午後ら
執筆をりつけ三十八枚有るを心る
並木元来流、低氣座をり又昌親
も之を、西村真次：考状を投す、柳内
田銀庵の以えん記念像と送る、下村京都
大子、其が知人らと、其間あり、見のつ人
枚林と云氷洗の香魚を指を贈る来る、

何れも遠近熱海と云柳来、大改が三枚迄六
郎の考別、

十七方

西村真次棒六七来訪日課の抄録を、此所
訣西村：登附、其の考も、流流の考を郵
送す、坂口五華年来流、午後抄録をり、け
三のこ格あして已む、病免容体漸く、未
氷を解く、西村、柳来、其の考あり

十六方

陰、肥田、神(先の遷族)とて謝状、利、程、打
来、法、日、深、の、物、録、了、る、其、時、久、み、子、来、り
向、為、之、育、を、日、存、心、社、に、功、の、を、法、す、(由、定)
亦、田、の、者、居、と、功、心、二、の、寸、珠、を、と、贈、心、風
月、也、と、致、し、七、之、日、向、書、後、又、物、録、を、了、
と、了、

十九日

日曜

晴、朝、亦、物、録、の、了、了、後、及、中、重、晴、産、来、法
七、日、月、波、也、み、す、十、時、見、る、を、付、め、る、散、策、銀
座、の、眼鏡、居、其、徒、を、功、の、を、功、を、贈、心、松、在
に、終、し、出、世、し、流、動、を、美、と、見、え、之、了、不、在

中、出、世、物、子、矢、吹、の、使、り、と、事、了、と、吹、也
夫人、念、之、難、持、手、統、結、了、を、報、し、改、是、
久、と、世、を、衣、り、し、と、込、み、あ、り、由、子、居、積
此、身、を、也、人、不、束、の、を、以、つ、る、断、ハ、リ、を
謂、ふ、と、還、す、久、米、邦、武、と、電、流、を、
日照、今、を、了、件、再、云、り、の、及、り、あ、り、和、
り、又、向、ふ、り、

廿日

曇、冷、氣、甚、し、伊、赤、泰、花、を、十、五、者、校、及、休
為、其、男、来、法、古、池、を、西、冷、吉、浦、の、邊、に

四五と婚の、日課の抄録ニ時と稱す、銀生(松村)
二箇修理を托し、眼鏡一個出来おとす、終
日筆硯ニ親しむ、

廿一。

明朝主の課の抄録をぬす一冊成り出せ柳
子とて本年向前の内子とてありたるニ對し
重物と需り来り、因ち銀場を九州支部
編号(十月十一日)の通牒到り、高橋義彦文
未邦武に書状をかき、大隈侯座談日記を附
録して載せたる文の協分、詳談集出づ、來

陽會協、自來迄、午後大隈邸に到る、俵中
評議、長十月一會中三田を言ふ、長時子と
例のこゝろ、長徳の快活なる、長久米邦武
等も此をいひ、長井野の往功を約す、
新國の及ん、長考も亦の徳をいふ、長來り

廿二。

明、新報を草し、長時と稱す、長山崎成春
の傳ゆ、長坊為、長海細工考、長物象代、長廿四
三十一、長拂瀆、長午後出版部、長列、長傳、長也
其の日、長國民文、長傳、長考、長傳、長考、長也

背筋すくなくあり、紙版の打金とあり、ほめたる
送くし寸法自今を氣あすくんと集を定むる
の自派の紙集也、ヤ持たる紙中、一室く
云々、ヤと時産らして事也

廿三日

大登り

此寸本の書画合部九十巻と一言に陳列と
口説く、一冊とあるの原を要すと云ふ一
す、加ふる巻紙集にあり、寸本の陳列を見
せし一巻の流布とあり、十のこお出を
神田の古書店を泊い、若干の園者と婚あり

く、午後らして、雨降つて風あり、か出
中、軽微の風降るとあり、早く臥す十
の、あしあつと、葎中、入、煖、眠とせず

未嘗

晴、或、冒の氣味あり、相、或、坂、大、崎、三、久、米、塔
士、を、給、の、を、書、田、坊、士、碑、又、中、二、三、訂、修、を、頼
み、即、生、の、事、を、得、多、的、私、し、七、十、一、の、故、去
十二の帰書、不在中、少の、給、杜、有、其、功、高
橋、義、彦、久、米、塔、の、改、訂、を、託、其、給、を
と、新、久、す、午、後、の、紙、を、施、紙、を、花、す

海を求むる小舟を乾^干を待つ事あり。二時と睡代を得ず。或は之を返りて
驚したり。あり。

廿五日

以上所記見る感有餘。注財を多く。中
室より。海を求む。行状も。並木来る。
南の俣木部の國者。到り。兄の或と
兄の是の女の。二三日を離る。二
つ。午後由。到る。大隈部。一
つ。余は。此の。場。有。事。故。留。る。事。

或は。胃の。事。を。缺。有。中。室。時。産。を。事。
者。午。後。又。南。の。俣。木。部。に。到。り。四。五。の。者。
を得。し。う。く。る。前。の。四。病。状。を。診。し。病。況。甚。
し。可。也。と。報。す。

廿六日

日曜

時。久。米。持。士。と。事。者。の。文。符。を。事。
不。行。心。し。て。事。者。有。病。義。産。に。轉。ぬ。事。
内。室。大。堂。と。事。者。御。反。長。谷。川。寛。政。の
訃。到。る。早。狀。を。事。者。十。の。廿。日。を。休。む。
散。策。御。坐。の。物。を。離。心。於。事。者。酒。名。と。

之る。難解と云す

廿七

曇天冷甚甚し。感冒漸く可。尚病多し。依
托の又好節とをぬく。投郵。回者。跋場。局
し。十月三日。地方。都庁。の。通。牒。到。る。森。脇
合。務。三。月。廿。日。迄。菊。尾。花。と。復。く。可。る。紅
証。舟。形。考。鑑。を。傳。へ。石。田。名。二。代。主。の
内。々。考。校。及。改。本。等。雁。来。込。午後。と。物
不。説。と。復。く。時。を。福。す。

廿八

曇。冷。朝。甚。く。う。う。龍。録。を。草。し。し。の。を。決。す。
男。代。英。一。と。す。者。坂。口。雪。珠。と。出。京。を。報
す。出。仰。折。子。と。す。者。判。来。る。真。崎。桂。太。郎
三。兄。五。十。回。忌。祖。母。三。十三。回。忌。法。要。の。菓子
判。来。る。午後。散。果。女。児。と。云。い。法。州。に。法
郵。考。す。つ。と。元。法。考。功。也。児。及。子。房
此。年。着。衣。渡。の。為。児。の。言。い。盡。極。あ。ら。う。と
由。子。今。夜。病。自。己。の。言。い。復。す。敗。病
状。一。つ。と。又。子。体。温。未。く。也。考。と。復。せ。す。

廿九日

晴、真つゆく秀翁、方丈と遊ぶ。田代の方丈
大愚在亭、轉々(肉鳥)と習流と交ぬ。坂
口五峯斗流、四立酒歩め、流す午後去
る雨降り出づ、午後、花石を流す疾風、
相年、真つゆく

三十日

雨、出野柳子、斗流例の矢吹、叢の流流
三度し長時写流す、田代、伴、大隈、
常、ら、と、来、者、田、代、く、一、者、を、め、り、す、古、地

書、畫、を、高、く、し、来、り、来、す、一、玉、唐、雄、大
隈、候、在、流、布、中、地、を、抄、り、え、り、あ、り、檢、閲、を、流
ふ、流、流、を、人、と、し、等、者、の、流、流、を、う、き、を、奇
七、来、り、の、流、流、を、流、流、を、う、き、を、列、り、池、形
張、り、相、り、あ、り、暴、風、雨、流、流、を、流、流、を、

○十月

一日

夕飯[○]のぬきり吐きあり、庭内を掃き
後毛の満地掃き屋の一角瓦崩落
す、（前日の雨勢が強く）又他
（一部）に損害の甚大を傳ふ、江川
所道の急流浸あり、堀江源より
危物ありある元ありす、（庭急の）手紙
をぬきし、並木宛[○]に山田山田
事、信太江川に事、（九月八日）
使命[○]二と考案を為す、（所記）

みだりの少夜、う、ニセレガルを讀む、
此ゆきす、大江に舟の事

二〇

昨、高橋義孝より、（舟）坂上弘義
の福江江船を多く、（舟）嘉脚合、
古池より、十一時にお出、（舟）
二二の四者を、（舟）出、（舟）
七時、う、ニセレガル

三〇

漸く好所を得たり。朝の廻り、回者の出入と
し、信らるる用、回者荒干、檢出、出、命、物、不
才あり、矢、吹、家、の、名、を、ま、け、是、如、久、と、貴
く、い、ひ、し、と、一、事、を、見、る、多、敷、の、み、女、あ
ら、ぬ、を、い、つ、て、一、旦、訪、う、と、も、再、庭、の、庭、即
こ、つ、き、略、り、を、す、こ、と、を、決、し、其、方、ト、い、ひ、
布、施、考、流、來、訪、前、の、年、孫、子、法、う、坊
人、を、役、ま、す、と、い、ひ、成、る、東、部、終、家、を、松
茸、を、送、り、す、り、す、植、物、を、初、茸、到、來
秋、考、厨、に、満、つ

四日

昨、午後、驟雨、一、つ、こ、直、つ、降、つ、城、を、見、る、者
昂、高、新、米、を、見、る、物、を、貯、る、又、の、場、を、
訪、ふ、と、い、つ、り、來、り、年、一、月、女、の、計、畫、を、
去、的、官、邸、後、午、後、由、も、三、つ、雨、雷、
の、て、教、集、池、田、の、考、底、を、説、め、こ、二、三、の
回、考、を、贈、ら、せ、之、こ、十、七、日、桂、次、り、と、い、
也、夜、未、立、家、を、あ、り、

五日

昨、今、相、み、つ、と、出、立、を、し、三、々、の、換、持

とあり久方待つる辰のお蔭に到り久し
く辛入とせざる樹木枝を我が下枝指ん
て早もあら、何れなる車夫とて辛入を
あさしあ、骨節其の道より枝
を指し若干を脱て運つしあむ的
光子と付あて花とぞり、電車を
品川と経北中の杉並に致し、三軒
の物を指あてゆふる、有明の空澄き
極めその是の血を吸く、又いぬの手南を
しゆ子といふ音渡

二〇

是日、早朝久松路の件有品川とゆふ
し流す、去るを大隈邸に到り行幸
と文の場々の記念も其他の件有品川
藩に終りしり、河原町に到り社務
を擧議す、坊上におありあり物を取
る、去るも出陣柳子方、老す、あむ午
後出陣、大吹見あむのいふ、中里の
競馬も知れ多き、中里の勝つて飛騨
凌雲日記と記さる、これ北条清輝日記
の記也、物よめりあり。

名跡傳をとき荒千贈る、古池書畫を
邦屋一巻の及返す、物録的を稱す、半千(級
後お徳ある心ゆき家計行きまじしを
祖母窮を誨く来り、差あり荒千筆を
半千刻心証印、紫檜印、蓮花印、
所りりり、午後矢吹者三妹有改入、
出陣柳子来ゆ久と見人をあしう、
矢吹去り後女子大子校中麻生山、
光の縁話、云々、結婚、
を清す、小若一才あり、河内田四
の途に就く、心証印を指し寸珍印、
二冊

とゆふ

九

頃、坂上氏所蔵、江射のめあ、森望
とある半千遺族、有指、物受上
代二十五年交付、半千母に渡し、
共三十五冊也、善木元、森脚、
後又心証印、漢一部を傳、高橋義彦、
位川を、一掃を、麻生心花、
書状を、二時、出陣、
す、松重を、代、山平

この時刻の印象を記す

十日

昨日日曜、出陣抑々しき者あり、其の足合
の結果先方は是れ不望し、返り来る。出
雲先生より江部藩夫の書状あり、在集四
海田博士より河内記念割体の報告ありと
贈る。高橋義彦の書状を授け、其
の返に五巻の書状を返し、山崎
の書を贈り、十冊の書集、津州
湊合局の報告と孫ひを呈し、其の返に
報告を呈す。

報告を呈す。其の返に、津州湊合局の報告を呈す。

十一日

昨日村立のハニ書状を呈す。出陣抑々し
き結果、先方は是れ不望し、返り来る。出
雲先生より江部藩夫の書状あり、在集四
海田博士より河内記念割体の報告ありと
贈る。高橋義彦の書状を授け、其
の返に五巻の書状を返し、山崎
の書を贈り、十冊の書集、津州
湊合局の報告と孫ひを呈し、其の返に
報告を呈す。

方杖とむら、口授しことまつき五十箇
淨念寺、方杖をかり、世より有高田
早苗、方杖とかり、床尾を脱ぎ、病児
と此に誓ふを記す、玉原、昨世分のるお
を持巻、あめ、誓ひの語、着合お花の
柿、去年持て實の、ち、三三人を老
ハ、三千個、程、車と、積み、持合ふ、方杖
上、三千と存す、

十二日

時、矢吹有三、身、約、婚約、身、云、云、式、と

十一月中、卷、く、く、く、媒、物、人、高、田、橋、士、兵
物、二、物、影、く、く、く、を、決、ま、森、脚、合、物、と
其、法、十、時、く、く、く、高、田、を、動、派、：、初、め、と
矢、吹、と、婚、婚、く、く、く、行、く、法、合、媒、物、と、杖
し、其、の、一、張、と、ゆ、ひ、く、く、瑞、臨、居、に、主
客、の、跡、説、(、別、殿、) 、と、部、を、婚、め、と、く、く、
庚、方、ら、く、く、く、其、也、お、出、中、高、木、吹、来
初、半、後、ハ、入、江、某、一、身、初、久、：、對、高、喜、嫁、法
と、云、く、す、既、と、婚、約、成、り、高、木、を、以、て、断、り
く、三、人、高、木、勝、く、く、く、初、半、雨、あり

雨、云原雄之助清也、種村宗八、年流、
以、多、山、出版部、と、修入、森脇美術、
早稲田大学、臨暇部、(宗、清、を、暮、集、の、件、)と、
寺、又、江、河、修、多、社、と、株、之、流、乃、決、決、者、と、
未、く、午、後、十、五、分、日、人、珍、者、を、出、海、の
田、者、を、捨、棄、す、高、中、以、て、他、の、伊、太、森、野
才、の、以、念、を、略、と、難、保、と、若、し、七、時、を
福、す、大、口、鯛、二、死、去

明、園、を、一、出、東、米、米、物、杉、雪、中、に、用、園、者
と、交、付、す、種、村、宗、八、並、木、光、寺、の、池、と、
四、五、の、印、と、贈、り、高、橋、義、彦、と、其、寺、大
隈、侯、府、決、日、記、の、行、を、授、す、



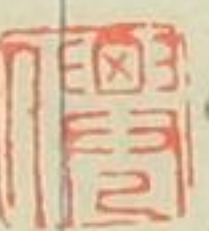
竹根印
藏耕刀



晴忌
乾也



牙印



藏耕自他自印
仙印



西島吉清
印

午後文部協会の事務に幹部會を召集し又
西者況の株主會を開き決定の後、来月洲
倉の協会の記念會につき協議す、夕刻會
宅、座談録を授す

十五の

昨拂曉燭を秉りて座談録を授し、本校
本義流馬、音流も、七の半麻生、心
を世に告ぐるに訪ふ、手元縁語に關する、玉原
雄、東の原、好(大隈、生語流)を交付す
訪は、八大ら、の、印創社、の、甘、其

誤、十一時の餘久寛を、り、原、社、の、訪、心
昆田文二の、も、古、河、の、會、社、の、訪、心、久、の、縁
語を、云、り、し、由、路、何、月、に、訪、し、方、也、と
訪、め、し、う、く、丹、美、原、平、と、し、其、者、也、
後、お、お、社、の、森、林、ら、と、杉、杖、十、数、を、運
い、来、る、ら、し、楠、根、の、修、理、に、供、せ、ん、用、也

十六の

昨、本、の、印、創、社、の、職、員、感、答、書、を、送、る
と、催、す、日、光、中、野、寺、行、(余、行、う、す、十、分
心、を、く、り、お、す、ま、う、す、行、進、物、十、数、に、油、燈

新島石印三印、2、状とあり、小田崎
産、石指知能里、真崎平三印、湯
淡吉印文、三、功、号上野梅の梅を
号坊と、稀虫複、意、号、谷、石、花
之、取、新、と、お、客、列、入、る、と、あ、く、云
山田崎を帯、同、十、的、号、坊、と、列、入、余
八寸、在、八十、種、を、推、考、一、列、入、人
之、列、入、数、る、然、こ、及、小、田、崎、は、何、れ、も、
耳、親、有、五、十、七、の、山、石、也、五、十、七、文
吹、有、三、耳、石、夜、来、雨、あり

中七〇

雨、今、朝、大、雨、候、と、訪、の、之、十、号、月、文、の、堀
合、を、候、の、御、に、開、く、こ、と、云、つ、き、注、入、の、堀
瓶、を、送、け、日、を、十、四、日、と、定、ま、長、崎、の、石、侯
の、注、入、を、聴、と、十一、時、の、也、由、崎、の、石、の
余、こ、れ、こ、つ、と、人、を、停、ま、坊、く、を、一、獲、也
券、を、七、と、も、古、池、印、十、顆、と、高、く、し、来、り
古、池、崎、并、西、崎、と、し、海、の、石、印、前、日、の、也
の、数、顆、と、係、也、贈、り、候、の、日、也、掛、崎、の、平、
後、昆、田、文、三、印、有、注、古、池、舟、才、石、新、島、四
凡、指、物、を、示、へ、る、不、用、の、符、を、捨、棄、し、心

心印、鐵研印、青浦印を合納整理、雜録を
業一七夜に入る、東方的論議の中心に到
り、また、業初事件、心印創名代果
をめぐりつてある、この夜に就ては、挨拶状を
り

十八日

明日、赤松山の御代坂上迄、新米功坂上よ
り家族移居、酒財を多く、お酒もろと、米を
天吹有三十石、功直、松納の件と協議
す、十一時迄と折あつて、お出銀せし、旅費用

の物を擔ひ、松素に飲ん、之より、旅費を油
ふ、午後七時迄、先回付上、電停、車庫を
見し、ゆきの途に、靴と、お酒、移居に、南
京、旅館の店に、過る、

十九日

明日、五時直江津に到着、天末に、おけが、起床
洗面をとり、お茶、驛に、お茶、お茶、お茶、お茶、
先か、車、お茶、お茶、お茶、お茶、お茶、お茶、
田舎士、お茶、お茶、お茶、お茶、お茶、お茶、
地、お茶、お茶、お茶、お茶、お茶、お茶、

信つて其の言ふに信て色下車して其方の旅
段上り危に到り其方に面す、其方井川上
土田ボの在り友交とす其方終に招くんて
長るる旅に到り酒会の時を多き、其方上
関の比免に其方井川上、其方淡し其方と比
新頼主事とす其方と決定す其方十二時
辞して其方の関とて其方乗車、其方ゆと三條
の法演とす其方の同驛に下車、其方
先が其方入る時、其方午後一時四十分也
松井高直、其方其方山田教誠が傳り其
坊、其方其方の其方、其方其方の其方授し

此の通り法と法法中上り、其方其方其方
口五生年、其方其方其方、其方其方其方、其
其方其方其方、其方其方其方、其方其方其方
田在、其方其方其方、其方其方其方、其方其方其方
時三條の法演を終り、其方其方其方、其方其方其方
其方其方其方、其方其方其方、其方其方其方、其方其方其方
例、其方其方其方、其方其方其方、其方其方其方、其方其方其方
り、其方其方其方、其方其方其方、其方其方其方、其方其方其方
二二三其方の其方と法又其方

時、新由清在、朔吉田和男、其功物を
賜ふ、葉子高秀、月堂、法要の葉子
十二人前、泣く又、親族、皆、是れ、方とて、
托す、真由中、たら、い、わ、色、い、れ、物を賜
ふ、坂口五、岸、を、功、を、其、の、石、能、の、吉、意、
を、見、ふ、印、誘、寸、を、を、賜、ふ、光、を、付、ふ
七、鐘、田、松、道、の、石、を、功、ひ、光、を、鐘、田、方、
托、し、買、き、栗、林、貞、吉、を、功、の、え、い、う、春、海
感、ふ、一、家、五、人、の、子、女、を、亡、ひ、う、不、幸、を
吊、し、十二、時、施、餓、く、く、く、真、由、桂、次
郎、高、橋、義、彦、高、井、忠、右、衛、門、等、其、功

真由云、後、高橋、松、入、錫、原、を
い、午、辰、の、湯、を、受、く、湯、を、赤、城、原、井
忠、大、ら、い、石、塚、三、中、日、原、偶、に、丹、兵、原
平、十、三、り、又、辰、三、列、を、土、時、施、餓、く、
へ、高、橋、義、彦、高、井、忠、右、衛、門、等、其、功、
く、今、夜、又、丹、兵、原、平、松、井、郡、次
高、橋、通、二、石、塚、三、中、と、錫、原、原、三、氏
高、橋、義、彦、高、井、忠、右、衛、門、等、其、功、
賜、ふ、を、具、す、上、中、喜、ぶ、次、を、具、す、本、を
賜、ふ、

早起、二三の方、女を認めぬは、所
ハ、傍に言司、鈴木守備、三三、振田、為、
入、方、就、を、見、か、す、い、ふ、女、あ、る、金、比、四、
宮、務、務、修、儀、其、の、寄、附、也、此、宮、を、余
の家、の、建、造、し、給、者、也、此、宮、の、妻、子
と、朝、公、の、女、を、給、言、ま、し、と、る、右、二、
代、立、田、三、十、八、女、体、拂、う、上、野、然、狂、撰
伊、孫、定、花、の、侍、の、首、首、二、題、字、を、作
る、九、時、拂、井、廊、流、の、家、を、訪、ぬ、其、時、中、太、
鐘、田、初、生、其、時、其、中、太、一、元、を、付、あ、
湯、川、に、廻、る、今、之、丹、其、原、平、田、付、十、二、
の、此、時、も、う、し、而、左、に、此、ら、と、午後、三、時、丹、其、
着、有、事、あ、ら、し、高、く、し、く、不、楽、子、佃、妻、を、冊
其、冊、に、合、家、を、り、冊、は、に、領、り、心、任、即、講
を、北、堂、一、角、忘、記、念、と、し、も、原、平、と、給、る、此、の
中、丹、其、あ、ら、し、也、こ、こ、獲、得、る、雷、電、産、の、原、
を、双、を、世、し、ま、さ、る、花、鳥、山、原、十、二、枚、花、を
味、こ、お、せ、し、あ、し、露、岸、産、御、は、こ、お、せ、し、時
紫、橋、大、浪、氏、に、寄、附、の、的、畫、し、給、事、の、と、云
ふ、價、八、千、圓、と、り、て、夜、来、雨、あ、り、

の、此、時、も、う、し、而、左、に、此、ら、と、午後、三、時、丹、其、
着、有、事、あ、ら、し、高、く、し、く、不、楽、子、佃、妻、を、冊
其、冊、に、合、家、を、り、冊、は、に、領、り、心、任、即、講
を、北、堂、一、角、忘、記、念、と、し、も、原、平、と、給、る、此、の
中、丹、其、あ、ら、し、也、こ、こ、獲、得、る、雷、電、産、の、原、
を、双、を、世、し、ま、さ、る、花、鳥、山、原、十、二、枚、花、を
味、こ、お、せ、し、あ、し、露、岸、産、御、は、こ、お、せ、し、時
紫、橋、大、浪、氏、に、寄、附、の、的、畫、し、給、事、の、と、云
ふ、價、八、千、圓、と、り、て、夜、来、雨、あ、り、

る、早朝(三)三才より自宅より養ひに侍
を託せ給ふ事(三)三宅を余の幼時家族
とせし儀(三)此柿(三)幼時好んで食ら
ひたるもの、傳内と名づく、一程の風味あり、
此山(三)外に絶へて無き柿也(三)余長こん(三)後
け(三)多(三)く(三)お(三)ゆ(三)く(三)え(三)ん(三)と(三)り(三)、丹(三)美(三)三(三)人(三)と(三)り(三)二
三の幅を示さる中、山(三)岸(三)山(三)の(三)佛(三)舎(三)心(三)の(三)か
幅(三)あり(三)余(三)の(三)家(三)の(三)在(三)り(三)と(三)り(三)余(三)の(三)如(三)の
と(三)り(三)る(三)也(三)、法(三)要(三)殿(三)願(三)十(三)五(三)日(三)油(三)を(三)託
其(三)家(三)に(三)託(三)し(三)代(三)料(三)十(三)日(三)交(三)付(三)す(三)、午(三)後(三)後

丹(三)美(三)三(三)人(三)日(三)付(三)五(三)十(三)日(三)命(三)に(三)行(三)く(三)ん(三)為(三)中(三)条(三)燦
と(三)り(三)る(三)儀(三)に(三)ち(三)り(三)の(三)丹(三)後(三)幹(三)次(三)の(三)芝
田(三)に(三)行(三)く(三)ん(三)と(三)り(三)る(三)儀(三)に(三)ち(三)り(三)同(三)車(三)と(三)り(三)新
方(三)田(三)に(三)着(三)る(三)の(三)日(三)雨(三)降(三)く(三)雲(三)あり(三)真(三)の(三)四(三)十(三)日
池(三)津(三)念(三)寺(三)に(三)到(三)り(三)、法(三)要(三)殿(三)と(三)行(三)ふ(三)、此(三)を
一(三)用(三)忌(三)に(三)あ(三)ら(三)せ(三)澄(三)七(三)日(三)忌(三)も(三)も(三)あ(三)り(三)寺(三)に
十五(三)日(三)布(三)施(三)せ(三)り(三)、新(三)刻(三)の(三)地(三)本(三)の(三)墓(三)を(三)拜(三)し
念(三)し(三)る(三)事(三)を(三)託(三)す(三)、山(三)上(三)の(三)墓(三)を(三)拜(三)し
終(三)り(三)直(三)に(三)歸(三)余(三)に(三)上(三)り(三)、新(三)刻(三)の(三)田(三)に(三)ち(三)り(三)田
邊(三)産(三)舎(三)り(三)る(三)儀(三)に(三)ち(三)り(三)儀(三)に(三)ち(三)り(三)大(三)幅(三)を
俵(三)舟(三)係(三)り(三)て(三)方(三)寄(三)り(三)を(三)託(三)す(三)丹(三)美(三)三(三)人(三)に(三)あ

山の及風景と、宛然一幅うち縁山形
北の好個山形圖とあるんを毒心する
又及心んや、とむらうも、終に云く、辰
の上立侍七素正論を先ませよ、兎角
権利論の後をくし、をくすつて、夫の
一時の光満のくす、返るあり、一人の
行の目付、石の海重く、行の物と怒る
の朝の日の二十、六の岩、沢、海、く、く、山、車、を、つ、ま、
法要の海、く、物、事、の、代、上、つ、の、物、事、の、目、
を、：、拂、く、大、徳、の、事、く、直、め、し、難、ぬ
味、吃、侍、く、つ、の、拂、く

二十三日

好時、五時起床、法要の幕子と、新族、が、
途、二、付、敷、有、の、方、杖、を、認め、今朝、一時、十、
分、の、山、岳、賦、像、より、帰、京、を、決、し、車、乗、迄、
、が、か、電、する、及、孫、文、姫、松、井、郎、治、汽、車、迄、見、
送、り、と、來、る、車、中、下、前、一、番、時、刻、已、満、の、
為、也、十、時、二十、分、津、川、と、く、き、徳、澤、迄、と、
通、り、中、の、意、あ、く、阿、曾、堂、川、上、流、の、風、光、
を、賞、す、北、邊、紅、雲、見、流、る、や、池、澤、山、都、
と、く、き、一、時、荒、松、着、車、中、漸、々、無、聊、
と、感、し、振、舞、事、の、方、を、後、に、く、三、時、五、十、分、

郡山着、こゝに乘換、白河より日全く雲
淵に渡り、こゝに一層を越すと感不支
酒を飲け、生睡を令ず、十時四十分上
着、荷物を個汽車に預け、午後
宅、十二時漸く寝、不在中、麻
生正刺、山作、地(佐時技夜)青須
芳治(不孝)中浦村役所(戸
籍帳を刊見)里人多内等と来古
あ、病院容体等、可、先不執手

二十四日 日曜

不在中、板木全手入る、早紀其の點
を捨す、菊池、菊池、近刊風暴人物
酒、酒を飲、本林、酒を飲、と云
ク、去る、板本、板本、福美
君山、支那、解、里人多内、本
山、風暴、午後、大隈、所、本
月、十日、邸、文、城、代
常と協、時、例、時、常、法、
とつ、板谷、山、山、山、山、山、
何、五、時、山、山、山、山、山、
山、山、山、山、山、山、山、山、

の八河隆之と鞋の味や酒を飲む、昆布
と物を贈る

二十五の

吹支那山東省博山第四中唯多と其者、廣
井一車法、経緯を付し皇馳上し依託をあり、
森陽居法を其法、新録を著しし時
を初り、菊池俊秀矢次有三十河隆一高
須芳次印と云状をかき、午後福田常
杉より魚河岸に移轉問題に付云くす、其酒
の土地に關し中絶貫一に銀介状を附す、此江

あ土、研究に行き、西村真次と其者、
その出を以て珠珀を、國書と題し
てのり出せし比中に列り物を贈るに
く録して初より物也

二十六の

時、早紀文の場を其日侯爵邸に開き、
大島安基由状を立案し、其時中大
佛國政事邊の役り者を贈る、坂上公
其例の注財を施す、種村森陽田代英
一車法、矢次有三十其の法、其の手續三月

帰郷して来る。午後大隈邸に到り任事
との代英一の手を返す。一時は同人数
并例の如く今より候と話し話を聴き四
時解しうす。久松婿・有全親を去る
出河：乾み入ん。ちる。廣井：捲保
名を交付す。関大郎出京、其の終極の
即しと承る者。

二十七

此、関大郎深井子に去り四時迄居たり来る
か四時を留めとちり返る。栗里書道協を延

ふか書道協代り三十日拂了。矢吹と文
所の上統納の日を十一月一日と定む。各云
く後而云ふ事此間：旋返を事す。其四
り多社の伊原奉親とて来る者。近江安土
昔西村真次郎の消息到り。今秋而中九
時月蝕

二十八

此、電信料中二部令十九日二十
所得税十五日九十四日(九年)第一
合共の府税市税 部令五十三

合計 三十九日六十七契納付了、其日
知行に到り、是レ千四拾入、但し、不
田九十日五五、四六、十の五割引、換
保當日石所四株、亦、其義の所印
刷株券納付入、この事、又、結納
之内也、是レ、その田、所、地、所、知、事、と
して交付、外、中、間、方、ら、其、功、物、を、納
する、所、の、方、店、に、四五、の、田、を、と、購、ふ、十
一月一日、矢、吹、家、と、結、納、元、為、替、の、件、に、付、高
田、媒、物、人、と、し、電、報、あり、本、寺、長、子、始、り、五
る、田、通、知、願、金、納、入、る、内、に、五、十、田、に、ん、也

定、納、納、付、と、り、あり、し、この、据、留、入、る、其、時
あ、今、家、も、し、此、前、の、ま、う、物、の、換、納、物、亦、換
券、と、納、り、る、その、ま、あ、換、納、物、亦、換、券、と、納、り、る、其、時
を、納、り、る、日、に、起、る、記、念、を、記、す、の、難、事
と、考、え、留、め、の、物、を、日、録、と、稱、し、し、る、もの
五、冊、考、ま、き、り、り、る、こと、更、に、清、原、記、念、を
つけ、る、冊、子、と、名、を、こ、え、り、と、し、又、この、事
と、考、ま、き、つけ、り、る、事、也、ん、と、考、え、清、原、記、念、考
代、十一、日、五、十、契、也、掛、納、在、後、後、清、原、記、念
毒、成、と、い、ふ、冊、子、を、考、ま、き、り、り、る、事、也、紙
後、名、勝、二十、日、茶、を、考、ま、き、り、り、る、事、と、考、ま、き、り、り、る、事、と

古、在二竹高橋義彦より方就とあり
す。

二十九。

陰子報喜の由を動改に記す。又統婚に
種々の打合を為す。十一月一日午後二時
結納取為給の事。十二月廿六日大神楽に
式を為す。又、法あり。由途松又を
二の寺底を記す。之より松又を寺務代
掛。浦統納名三紙に注又し。又出来
別を。お出中。平山寺利助。東流。丹

後、許流と法要集子に挨拶状あり。
午後浦統の散策。淡会屋に立寄り
書台。在在。練の秋の園中。講二冊を
得。是れ。路を。こ。印人。多く。元と。印
す。法。起。出。揚。印。賞の。甚。者也。同
行の。先。こ。し。つ。ん。と。法。務。寺。を。つ。を。元
又。こ。入。う。物。事。山。の。教。域。而。代。英。一
と。し。し。身。も。不。在。中。江。部。流。夫。直
流。夜。来。雨。あり。

三十日

時中務寺湖上とて初め若菜の侍入と
別子往持日詠初をて矢吹者三の家を
ゆめを花敷の打合ををす者三婢倉辻
の俊末之入に而す森脚合詠を有本河
田伏英一河河原治中と云状をめかす
午後園をゆめ雅録を著す且つちりら
有忍録の踏考を始む著録は信也散策
琳瑯名をも幼心野泉帳を得てて

三十一日

休日

時、昆田文二印尋詠、真吟中たうと来也

日課の抄言に時を物す、閑に集りて散策
兜術数氣を睡の神田の方名と幼心終に
銀座と別り移して酒舎して之を丹其の家
丹其宏平とて其妻板木意色子数口手
入代五丁田押留、寝夜渡香の平説を後
聴りて午前一時と睡代と湯す、折る
恒田より物を移らす。

十一月

一日

明の況神宮を奉養成り鎮座祭を
行ふ所り多し全帝大祭に赴程其日即生誕
日ニ付未敢を奉養親族に配る午後
二時六次家と結納を互ひ元為所會
而方々し袴代り田糶子未敢親
於者其心に載る多智と使と七老
く是方々し田時刻に曰扱し物と為
持使来り使あり至三田祝儀書を
りりり媒婦人高の田久帰し高を

此をともす所必なるを報す、勝言の時
と福す、一紙をもち、意報の勝言を如
らう、その勢も、前の江安の葉子の拵持
七香典千走、と、と、車乗る、拵不負を以つて
贈らる、今津八一、空崎辰巳、来流、夕刻よ
り雨降り出づ、小森文七、と、と、三本二冊贈ら
る

二日

雨高、日課の勝言も、小森文七、新に宗家、
謝書とある、讀うけの、後、後、と、空崎

辰巳、と、と、身者、午後、雨、雨、乗じ、散葉
す、と、と、列り、珠、珠、客、と、圓者、と、勝、の、と
之、と、圓者、列、行、今、と、拵、守、部、今、集、未
六、配、本、あ、と、八、と、午後、出、後、部、後、る、と、と、
蝶、列、る

三日

朝、も、雨、然、と、り、新、文、藝、場、と、と、と、五、冊、を
送、ら、ま、と、東、儀、一、巻、然、と、と、此、業、不、と、日、課
の、事、終、ら、る、と、ま、る、事、後、未、と、と、雨、の、車、乗、り
拵、物、四、と、身、生、と、と、と、と、と、代、集、一、本

河、西村真次江あ玉城造結確定て十日
と号し七由り程この報ををあしと云ふ久し
口矢吹家へ嫁すこと廿午後の閑に乗し心の方
を懇申す、九月廿九の暮に就勅渡河橋士
と申し申す、一月廿二日、ホルトサイトぬる作所
丸く捲来二月下旬東京着、しつとを報
来す。

四〇

吹山の山内氏素陽多御来致、改上弘
長、あるは財を受く、増田義一と云

雪、後、しも校友十五六元余と高田村内の
運、勝を脱すも、意を以て来り廿二日、
知、と招待のり、と、尸、城、と、吹、流、の、先、を
あす、區、後、不、し、現、在、東、然、を、の、得、に、
尺、受、あ、し、代、人、と、ま、出、す、日、深、の、勝、守、
内、子、三、城、に、行、き、其、時、の、準、備、と、あ、り、其、
木、山、五、流、(水、流、真、中、古、神、司) 申、流、午、後、
散、来、神、田、給、せ、物、と、贈、あ、し、し、今、津、
八、し、し、し、し、

五日

以、早朝紙、布衣、袴、高尾、大印、飯田、良
平、早朝、廿、廿、大、今、と、あ、こ、こ、も、云、一、一、
去、真、中、大、印、来、の、た、後、好、の、式、と
本、く、も、も、袴、地、考、及、ク、ウ、シ、ヨ、ン、モ、税、と
一、七、也、也、也、出、す、文、明、考、院、の、田、村、来、の、死、由
金、支、出、の、印、す、十、時、と、の、出、給、道、
二、協、兵、と、協、兵、と、午、後、三、時、の、田、名、藤、田、初
の、旅、路、と、も、を、列、ぶ、文、明、考、院、を、訪、見、
南、皇、廿、一、日、飲、ぬ、金、五、万、円、給、行、預、け
入、る、雅、録、と、を、一、お、り、入、る、

六日

晴、朝、来、の、日、の、文、明、考、院、と、大、會、に、提、出、す、
き、會、の、報、告、案、を、行、す、花、村、兼、木、森
脚、来、訪、森、山、三、才、り、エ、ル、ト、ン、夫、人、の
若、者、早、大、圓、寺、飯、に、出、給、三、才、持、卷、
天津、在、任、の、枝、反、ハ、倉、庫、宏、才、訪、北、海
道、和、島、自、平、と、し、イ、キ、也、午、後、あ、あ、あ、
御、伊、東、部、と、列、り、平、山、半、の、考、院、と、
と、見、四、時、帰、電、

七

時、日課の膳室より、素脚来りちり方隈
邸にあり文取場の大倉と打合をりて
去る、松井野流石塚三印出立来り各一
物を器らる、十時より大隈邸にあり、堀
大倉の役侍を元七種々差回を為す、午
後一時も会者続々あり自動車候邸
の前庭を填め交へし然地なきに到る、
ぬ天氣も今春に便し、三三の數十名
を分派す、節具より余金の十二年方
の経歴を報告し、今も長候一場の演説
あり、来度中日置駐獨大使謝辭

を陳ぶ、羨樂節具の間に杯を交へけ
四時散会す、協合を来年一月より更
なる為すあり、先づ此の大倉を更
き宣傳をり、也今日の結果ハ極め
て良ぬ、今衆中、午田の演説を
三授し、二人あり、三浦岩崎、大
改星、津動、三来也

八〇

明、雜報を著す、石塚三印は行儀の生
難き尾をより来り、十時より印刷會社の

重役會に臨み、年末配當し、手帳を渡す。午
後出陣部の重役會に臨み、期決り并
部配當を内訳す。終るに早大の維持
會に臨み、村井銀行へ金送る。同日、
昆田夫人を訪ふ。祝儀と世帯とを贈る。

九日

所林社請有心得今朝、早大の維持會
事、早大の維持會と訪ふ。四五の方を購ふ。中
池田龍一、早大の維持會、早大の維持會

協濟す。早大の維持會、早大の維持會
瑞末三人、早大の維持會、早大の維持會
田中冷句集を送り来る。五時、早大の維持會
ゆ子島の新年挨拶。早大の維持會、早大の維持會
春の朝に到る。早大の維持會、早大の維持會
昔の早大の維持會、早大の維持會、早大の維持會
早大の維持會、早大の維持會、早大の維持會
祝詞と海老、早大の維持會、早大の維持會
早大の維持會、早大の維持會、早大の維持會
十日

十日

所朝又之の御事、古書の間書三巻、三
巻、東陽之流、亦文、石塚、この中、杉井、
比、考、就、と、い、う、る、者、在、お、存、在、者、在、者、
氣、の、存、在、を、お、持、人、を、考、え、る、者、は、是、れ、の、
分、を、考、え、く、馬、馴、く、し、出、版、時、の、又、文、の、を、
二、日、暮、き、り、刊、行、し、る、植、輪、集、の、解、説、出、版、成、り、
お、谷、多、彦、の、傳、り、考、え、る、者、は、西、野、在、標、
本、集、二、冊、出、版、今、日、寄、り、七、十、五、年、の、お、谷、に、
海、を、投、げ、る、年、後、傳、り、て、教、集、神、田、に、
根、の、杖、を、贈、り、度、十、五、日、也、
神、田、を、送、り、し、る、行、と、い、ふ、也、
神、田、の、實、を、考、え、

致しんゆく、光田傳、

十一

陰、お、谷、多、彦、を、考、え、る、者、は、森、田、多、次、郎、の、
部、刊、の、度、井、一、年、後、上、中、書、亦、お、存、在、者、
桂、野、中、多、彦、を、考、え、る、者、は、本、集、の、
十二、帖、を、考、え、る、者、は、本、集、の、
解、説、を、考、え、る、者、は、本、集、の、
古、書、の、古、版、を、考、え、る、者、は、本、集、の、
精、心、入、り、折、柄、を、考、え、る、者、は、本、集、の、
秘、藏、帖、を、考、え、る、者、は、本、集、の、

中のものよりさすは、此帳簿も若くも
そとにききし十ゆゆきと雨とさうも
降つてく

十二日

雨、大改の里柳動くと此影に押さ
を試み郵便ももつて、是より次第と
状をりかき、内子として中をよみ
て、いせし、高田とあり、考別を
改に五峰、上原、長泰寺、五峰、和
五峰寺と一魂と行な、柏山亭、吉原

祇二枚打席、刻者、午原と共
同付、森田、芳治、中、の、是、森、式、と、此、式、
浦市、谷、左、内、上、長、泰、寺、五、峰、和、
島、田、久、渡、の、邊、是、と、此、三、中、
間、し、五、峰、と、此、は、な、る、原、人、と、
ま、く、通、る、の、を、を、任、務、す、
神、本、の、の、お、お、と、
又、と、此、の、森、脚、石、
決、高、木、明、と、先、年、購入、
對、し、有、用、者、數、千、
此、神、堂、を、此、と、神、田、を、
物、室、米、満

骨董高を看取ある由しある、於本忠次
とて其者

十三日

昨、所々朝、乃、的、内、録、之、竟、を、り、名、分、就
、所、の、之、流、す、均、路、一、二、の、名、店、を、訪、ふ、お
、出、中、坂、本、嘉、治、馬、本、坂、午、後、又、敷、栗、本
、以、之、一、二、者、店、を、訪、ひ、文、亦、亦、と、寸、珍、を
、一、候、と、辨、め、、清、印、を、す、り、之、清、海、の、出
、中、山、心、し、他、前、の、の、漸、次、に、す、り、及
、物、を、好、し、と、す、

十四日

日曜

昨、下、條、西、堆、に、一、由、と、り、か、り、久、史、年、向、お、流
、於、之、と、自、分、名、義、を、以、つ、て、在、世、業、屋、を、
、取、に、御、ま、五、百、円、治、平、山、を、と、り、し、て、
、つ、ま、ま、以、つ、て、今、以、て、果、々、と、い、は、る、な、候、う、と、
、凡、に、し、て、是、を、を、云、つ、て、一、由、と、り、か、り、す、り、と、
、一、由、と、り、か、り、平、山、を、利、用、し、し、一、由、と、り、
、と、り、か、り、を、云、つ、す、高、木、昭、と、す、り、を、
、す、大、隈、邸、と、判、り、候、に、面、し、て、文、の、所、存、に
、件、亦、に、石、油、四、百、圓、を、河、巻、に、付、云、つ、す、
、後、一、時、と、り、高、科、大、子、講、中、に、於、て、文、の、所、

今の分を詳説分を二つあり、膳部侍中侍士
并に大隈侯と河内守、會衆を二邊に
置て、今より子孫に承継せしむるに依
りて、士を二層とて、名を異にする
此の如くは、日技新築の分を二つあり、
廿二の分あり、餘は、今より、高野内
を早大日入廿分あり、と、扱得するの
事あり、然れども、今も、新築分、此の邊に
色別あり、今も、年配中、扱得する、三割
也、此の邊に、扱得する、年配、引二十
居別あり

十考

一、今朝久を伴ふ、高野内と、動政に功
二、法勝、二、指指と、為す、由縁、殊、殊、異、
三、圓者と、鳩、め、こ、う、く、す、植物、を、後、今、の、人
四、ま、う、く、尾、附、に、肥、能、利、を、施、し、七、考、の、半
五、後、六、吹、者、三、身、功、又、出、世、折、子、も、有、る、
六、ま、う、く、法、勝、の、出、功、代、十三、日、五、日、夫、部、以、て、
七、新、築、分、の、通、曉、者、元、の、考、院、元、師、
八、後、今、長、と、し、七、九、年、が、中、二、期、合、格、事、業、税、
九、五、十、五、日、卷、十八、日、夫、府、税、市、税、六、十、日、五、
十、一、日、夫、八、日、暫、く、に、扱、く、今、の、文、の、考、院、より、

交と報御七郎中と受けさし北を視
と不南とそふへし、えん宮中と文の書況を
れ自身の境とすふきとの歎、大吹とと去
十一日宮内省より法幣許可を得る者
報せらる

十一

昨、向島と電話と交換す、故上弘義其の
注射を多く、平山杉尾も訪、古池橋常
吉の山崎を賞らし事り示す、大吹とと時
午後振う、二廿四日同時のう、石塚三印也

東京に同原雄介、其の東、故其の
中、丹大進、祝、行く、つと、来りて、おを
告く、丹吉、原平らと、いふ、也、並、米、免、其、故、
十一の家と出て、免、田、信、知、す、飲、し、其、故、
山崎、おの、あ、あ、物、を、贈、り、て、之、う、る、森、崎、
其、故、大、吹、信、考、し、し、酒、の、醜、酒、を、贈、
らる、田、也、物、を、知、り、し、也、主、も、る、可、也、
後、之、地、き、る、屋、中、阿、久、流、を、行、て、
得、り、十二、條、の、物、也、也、と、也、と、也、
物、も、う、る、保、り、し、其、故、其、の、生、余、の、
還、暦、を、祝、する、の、う、ある、者、を、云、わ、し

七巻

十七の

時、石塚三ノ方僧作多ク、亦就とあるす、
黒柳動くろしやなぎとあり、十の内蔵と日永念珠
三つの子の竹取に十二の内蔵、別出
中ノ御孝文、其家家の使とて、其
入深法師、其江部とて、今とて、其
の御節に、招く方、其血脈守に
即ち、其田英二とて、其未、其女
石大印、其黙、其水、其流、其流

あり、其方、其代、其主、其方、其校、其栗、其山、其崎、
其物、其あり、其古、其池、其是、其者、其崎、其の、其物、其を、其持、其も、
示す、其四、其時、其く、其久、其え、其あ、其女、其を、其は、其の、其大、其吹
方、其行く、其法、其時、其前、其り、其又、其崎、其也、其崎、其谷、其の、其器、
を、其考、其け、其八、其時、其物、其も、其北、其夜、其類、其あり

十八の

時、久須美、其あ、其ま、其う、其夫、其妻、其繁、其延、
上、其堂、其熱、其美、其あ、其お、其あ、其内、其お、其る、其多、其田、其英、其二
寺、其通、其悔、其を、其悔、其く、其ま、其る、其終、其定、其を、其を、其あ、其り
去、其る、其十、其時、其大、其隈、其節、其利、其り、其其、其候、其二、其面

し信常と譲し七幅了、神田方店と坊
女四五の団書を贈り古池を分翠峰
押寄も屏風は双を持来、價高、の
くぐんじ、片輪らるるを中道成とす、保
し心國画家の孝子玩賞、位するを以
つて贈り入る、庄本目錄と心、(家と村
回出中庄本を懸、擇しとる也)真流
桂次中子忠法、贈り祝物と贈らる、
南葵文庫に大風琴、体付、段、つと、
二十より及ぶ、す、流養の要、用、徳川、
らし来る、測、乗し、七、流、海、報、と、す、す、

十九の

明、時、物、其、型、公、次、意、し、と、乳、^湯、
籍、其、時、く、湯、者、と、り、り、古、池、来、る、屏、風、
代、三、十、五、四、の、内、林、之、田、海、福、田、是、功、
こ、漏、し、る、者、函、帖、押、之、も、ま、り、送、ら、る、
前、の、紙、白、に、湯、の、折、の、河、賀、流、山、水、
并、に、題、名、十、二、幅、向、外、二、幅、と、贈、り、
る、外、山、侍、三、丁、子、幼、物、と、贈、ら、る、田、邊、
中、三、謝、書、目、指、り、葉、子、と、贈、ら、る、江、戶、
口、五、峯、の、落、葉、子、茶、を、使、贈、ら、る、三、半、
光、と、付、り、る、外、出、琳、瑠、名、と、記、し、る、團、書、

を晴ハ涉州、^二到リ金^三、^四銀^五と活動
言^六を觀智^七入り功^八也、^九松^十耳^{十一}由^{十二}也
リ

二十日

雨、満庭の楓樹錦と綴る、机前の一樹
楓樹^ト也、^二涉^三空^四赤^五俄^六の如^七也、^八力^九も^十四^{十一}之^{十二}
勢^{十三}を^{十四}より^{十五}し^{十六}身^{十七}也、^{十八}坂^{十九}本^{二十}嘉^{二十一}流^{二十二}馬^{二十三}来^{二十四}流^{二十五}外
山^{二十六}侍^{二十七}三^{二十八}印^{二十九}と^{三十}し^{三十一}身^{三十二}也、^{三十三}自^{三十四}本^{三十五}目^{三十六}録^{三十七}を^{三十八}兼^{三十九}す、
丹^{四十}共^{四十一}元^{四十二}宗^{四十三}平^{四十四}の^{四十五}也^{四十六}状^{四十七}を^{四十八}兼^{四十九}す、^{五十}干^{五十一}後^{五十二}神^{五十三}田^{五十四}の^{五十五}
散^{五十六}葉^{五十七}二^{五十八}三^{五十九}の^{六十}也^{六十一}店^{六十二}を^{六十三}記^{六十四}の^{六十五}也^{六十六}若^{六十七}干^{六十八}の

圖書と購ふ、

二十一日

日曜

雨、^一相^二耳^三自^四本^五目^六録^七を^八心^九る、^十海^{十一}田^{十二}の^{十三}也^{十四}部^{十五}也、
後、^{十六}曆^{十七}史^{十八}論^{十九}を^{二十}試^{二十一}み^{二十二}時^{二十三}を^{二十四}移^{二十五}す、^{二十六}大^{二十七}連^{二十八}校^{二十九}反
も^{三十}書^{三十一}の^{三十二}傳^{三十三}を^{三十四}も^{三十五}判^{三十六}り、^{三十七}干^{三十八}後^{三十九}理^{四十}也、
多^{四十一}子^{四十二}海^{四十三}次^{四十四}も^{四十五}も^{四十六}書^{四十七}を^{四十八}も^{四十九}こ^{五十}差^{五十一}す、^{五十二}赤^{五十三}樂^{五十四}江
巻^{五十五}を^{五十六}寸^{五十七}帖^{五十八}を^{五十九}書^{六十}し、^{六十一}西^{六十二}を^{六十三}も^{六十四}も^{六十五}、^{六十六}中^{六十七}の^{六十八}也^{六十九}
地^{七十}を^{七十一}字^{七十二}を^{七十三}編^{七十四}り、^{七十五}何^{七十六}も^{七十七}高^{七十八}松^{七十九}義^{八十}美^{八十一}
こ^{八十二}也^{八十三}也^{八十四}を^{八十五}も^{八十六}す、

時、早稲菰を拂ふ、中村が早稲印請願布
ひき一部加入し、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
會持する所、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
附す、田村を招き、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
田村に取返し、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
直に早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
別荘、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
招く、但し、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
内する、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
記念、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を

現る、早稲菰の早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
の、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
二、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
以、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
と、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
起、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
以、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を
著、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を

七、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を拂ふ、早稲菰を

四十一日丑十七日也内津左の如し

十八日九十八日

九年後津波の
府後(震)屋敷

二日十日

高犬後

三日一日

府後(雨)津波
市後(出)津波

十二日九十四日

所津波(雨)津波

四十七日

日印(日)上

七日

日印(府)後(市)後

服部嘉吉(書)功(山)葛(高)業(文)親(と)贈
々々(松)本(志)次(本)脚(其)法(午)後(六)吹(其)
訪(至)る(所)次(深)世(傳)五(印)午(以)是(秋)
雨(菊)り(と)七(利)ふ(控)保(と)革(し)時(と)福

す、由(中)や(り)の(中)西(望)三(と)是(其)也

二十四日

雨、及(以)雷、(難)程(保)を(著)す、(黄)草(田)の(雨)を
終(了)す(と)丘(二)幅(大)池(持)卷、(古)池(を)分(し)て
俵(外)の(雨)を(と)り、(寸)冊(力)持(老)を(と)り、(梁)
峰(屋)代(代)次(を)十(日)大(池)に(流)し、(雨)午
後(雨)の(音)聲(と)功(以)二(時)半(動)政(高)の
宅(に)行(く)、(坪)内(場)中(海)に(早)速(等)と(學)校
の(前)庭(持)て(以)る(音)問(題)を(内)城(す)、(直)器
位(城)と(し)味(唱)を(持)貯(と)り、(左)北(海)を

初、高直平と一子侍等の六世を以てしむる
みり、んら午後六時、ピアノ調子の如
く、おん行く、努由を呈し、印子以て武
統婚披石の案由、狀列す、十二月十二日、築
地、精養軒、和地

二十五日

時、梅木邸来り、松の枯枝を寄託す、高直
の之を、七、而、言、前、も、植木を、手、入、中、古池
敷、有、の、印、難、と、持、卷、出、政、部、も、早、上、者、前
文、範、配、本、注、祝、納、了、午、後、出、遊、酒、井、好

古、池、と、是、以、買、入、爲、の、代、金、海、歌、拂、油、枝
木、を、納、入、る、ま、は、十、数、の、色、材、に、人、妻、衆、も
施、す、其、氣、勢、強、く、な、り、相、府、を、お、き、寝
、此、く、江、乃、石、塚、も、五、峯、寺、割、賣、の、如、き
、高、直、客、事、使、こ、も、お、き、こ、こ、を、報、じ
来、る

二十七日

所、坂、の、五、峯、寺、高、直、五、峯、寺、に、割、賣、の、如
き、高、直、客、事、使、こ、も、お、き、割、賣、の、如、き
園、印、後、代、五、十、四、日、持、了、石、塚、の、如、き

状をかり、森脇会務を報告す。大会以
来寄附金募集を第四、進す。此入費
五十八也。午後印刷分社に別り社務を交
す。専ら初旬午後分社に提出するべき案を
主の配南率を期二割而未、以下嘉法
馬と地名字典縮刷の分冊首尾印刷
を示す。五時市士見接し、開会の儀体等
：出席、会長と一場の演説をあり。早
く辞して自動車を乗り、清河通生に別
る。保と雨降り出づ、大隈行市と通生と
扱き文取場等の為六宮を踏み、清河(其

田中四郎左衛門の七喜の

二十七。

両宮成、後善約々々、地名字典縮刷
見と、一とと清く高橋義彦、新三
す、森脇会務を自ら訪、内務省米城
らし、伝記の資料に仔細をとり、
花を雑誌をとり、雑誌即ち十日久
須美方、為指をとり、昭壽宮と扱え
る故也。又皇太后夫人直訪物を終
る、結婚し、件を付一二折合をあり、後

は高野の十井岡に接す。

廿六

時、長谷川信房の借入を以て、日守を
増子とて、甲女婿堤秀夫（早大理科
教授）東年一月洋の生を言す、
法田中唯一、才物、兼、菓子、お
人を老す、九時、家を出て、熱見の家
家別邸を以て、奉り入、海、江、部、と
せ、千、松、に、振、る、馬、白、柳、の、屋、画、と
とあり、四時、正、時、一、七、入、字、日、比、田、と、せ、中、央

傳、東、地、の、車、馬、と、白、動、車、と、俄、に、三
人、日、乘、上、中、の、物、者、お、か、け、の、久、須、美
秀、三、印、の、壽、安、あ、り、出、立、す、待、と、臥
息、あり、才、物、客、る、に、兼、ん、と、**盛、合、**、又
日、比、と、白、動、車、と、俄、に、之、に、又、和、田、維
四、印、と、て、出、立、す、出、立、す、雲、村、又、序
日、比、を、懐、に、お、か、け、す、雲、村、と、和、田、の、語
也

廿九

時、古、池、素、三、飯、村、常、山、の、山、外、物、お、か、け、

席に揚げて親しく森脇往村東
其の宿に成り久持塚に祝者を
和日難四印に流をよるす、十一持
和生に物を贈り、松並に飲す、由
田の一二者店を召ん、海客の由
此位集に海をもかす、折所を
早く歸す

二十日

時、日本郵船今純四株又つ名義十株配
三割(七十五圓)今日飲取、結構あり

般お念のお欠を論の、春井二十
打井船り、らこと千の可約千も
三時を印刷今純に列り
留給の河清をさす、一
せしめするもの十数あるに
の訓示を為す、故に五
十一月を以つておこも
多費に同くも仕拂額約三千
こ上る、嫁具の費用八分を
長七家用の六の、約の
改姓にあらざる

○十二月

一日

明、坊、茶、寺、長、四、所、附、印、赤、書、基、木、光、其、法、
 正、午、永、樂、修、樂、印、三、新、物、朝、授、友、却、食、
 伊、地、祖、法、の、あり、午、修、念、を、あり、この、文、
 の、場、所、を、孫、不、之、刺、り、海、原、集、編、輯、會、
 を、あり、向、出、中、田、中、五、次、中、有、功、也、
 海、原、集、の、干、進、を、授、り、其、の、由、は、其、
 文、の、場、所、親、負、一、同、仁、木、清、と、其、
 儀、之、祝、者、を、授、り、其、長、官、の、由、り、二、千、四、
 約、手、期、限、行、之、る、本、日、更、に、刻、以、

せうふ。

二日

明出版部紀事平年自程打らるる或も
海邊と云ふよりして日本間、下全柱谷坂田員
一逝く、杉山室義四郎傷とやさき見あつた
をゆりま、平山を利助下り、艱必多、画の
件身来流、古池、常山の梅代十七日
拂了、山向流、此華山の日徳後、おもたせ
内各久克、云状をゆりま、午後落合
の在、利久、依伯村、此長代、四かゝり、秋物

到来、平江、淋病、不畫、帳と云うと
畫をよめ、おも(使)用料納付、秋
ふあり

三日

雨、地震あり、阪上、注射のびる、身あり、坂上
岸、身流、坂田員一の肺病、矢吹有、三
結婚あり、井倉、この、江都、渡
來、訪、祝、品、を、贈、り、る、午、後、家、慶、記、を
録、す、久、井、縁、に、は、せ、の、手、了、控、也、三、時、じ、い
出、給、せ、こ、お、も、將、心、杉、喜、に、飲、し、て、之、る

四日 十日のまじりの全全等光
左のり

四日 午前十時 古山 阪田場士舞式

五日 午後 文の協会奉祝会

六日 午前 印刷局祝重徳会

午後 出版部総会

七日 午後二時 日比谷大津堂、松元

維持会を奉告し、又刻、高士光

孫文会

八日 午後二時 早大維持会

九日 早大付七回原行

十日 日土

十一日

十二日 午後五時 築地持美会祝賀会

以武維持会会

十三日 午後大隈侯邸 月一会

十四日

十五日

十六日

十七日

十八日

十九日

圖書部編成

紅毛館 同人会 二重層観望会

凡、早大よりこの維持費令に附謝するに
位規定案を回附し未だ、肥塚龍の跡
別る。日清生念より十の奉別親割の案
利、唐井一、少井三田村在次申交、本
古池雲名の概源園を譲り来る。改
田場士の葬式、懐の古山市場に出張
子有改未亡人其物身一二結婚式に打
合を為す、森陽台物身十申功、麻生心
子息を云ふ香典申出為持光を考る、
内務係親に大印三款古池素三を以て

山内敬富に家刻を托す、又次家、河
内りの節、祝とてをすべし、懸り一、台
江文の意をり出来、此儀三十園也、家
考記と記す、此婿式ありし件、行
方、向くと物とあり、此の儀、四、祝
儀多をまつ可也

五

昨、拂地地震あり、日比野夫人早朝、其幼
如婿あり、式其儀に、関し、諸般の打合を為
す、此を大改し、其の才、物、十、四、門、生

格のち人余のいふに還暦に祝言をたうある
件に聞しもの官打合をとりてある。野に
坂の山出年其功法婿に祝言を贈る
下谷の家の子孫ある。法婿に付てその
世をさう、年取の方深命に奉法を
あく、松波仁一郎は、今井時印の長
時子と深る。許浪あう日暮閉合、法婿に
物も知通に付種々の事を久次家と交渉
後より忙殺

二〇

時今朝の時す勝具を自初再為事
親せえ、次家く送る、多賀を使ともせよ、久
次家く難弟を台の白深、末廣先力
親族ハ軒分并こり、兜六人、し道物
共併も送る、九時止日印初分社のを
後身、信ある、徳今に附すへき、城あるを
未す、二割の酒由と定む、午終出助
部の株主信ある、信ある、えん又二割酒由
を考す、津學政の許海からの支店に元
附起る、力り出助部の肥由を注ぐ
ゆり、二庭の夫、字の家を、祝言ある小

井田三三出陣物より、ももも禮物到着。久次
家より久々、お袖を重工ト襟の各指
輪を贈る。此等よりすべし、のり用由
へまじりの也。折原初軒より、近昔、雅
邦と芳の尾を贈る。

七日

昨朝雨の雨今朝雪と変ず、近し降り積る。
全の是勝を祝せんとして、以部賀四石塚村
木大江より、人連署の、あまの祝到着。今、
十九日、信厚の、贈也。十時多、賀男士を、使と

して、夫、吹家、城の土量物、克方、姉妹
四人、久物、四包、為、お老、を、為、送、り、の、節
考、し、為、分、り、を、令、せ、令、部、送、り、の、節、
則、令、物、を、廿、日、永、樂、伊、出、部、に、送、り、株、主
係、存、の、る、藤、利、の、尾、崎、行、雁、より、ワ、カ、
イ、リ、著、述、及、譯、二、件、著、者、の、通、信、を、お、り、
電、報、を、し、通、知、あり、正、午、庭、附、の、雪、お、り、
一、時、多、禮、降、り、つ、た、り、午、後、一、時、以、由、夫
婦、迎、に、来、り、廿、日、お、り、久、と、も、入、り、細、見
泥、倉、撮、影、を、為、す、自、動、車、二、台、を、見
余、と、是、以、由、久、と、是、以、由、久、人、同、乘、日、比、谷、大

神宮に由り、二時式を始り三時了、直に
一同宮あり候、宮中見町中士見物に到り、
久吹家の祝儀式に臨み、十四五花の
四五身存り、山内物守と久吹先代之妻
人とて臨み、あの方側より見印車
合、宮中上より由城士傳りて一坊
の演説あり、山内物守祝辭と傳へ合
りり、是即新物、新婿旅りの途に上り
日留天婦傳り車傳り也見え、こんろ
結婚演、内田定植とて車者、文的協合
に刊行すべき回者と云々し来り

八日

所積雪満地、潤ちり出、雪止り、梅原精
一、早詣、午後出版部と到り、職あり、此其
と演説、二時了り、早大の維持員會に臨
み、此地位ある提出、身論、戒め可、海り來
あを法す、出版部とて、此を主七千五
円、雪止り、千二、ろ八、四七、一、我を交
く、不在中、日留天婦、人來り、久吹家
家族四人、及物とあり、出版部より
傳入、主四、ろ、四、五、印、

九日

晴、函根院の寺に於て印紙物をして来前
敷通利を、金壹千圓銀り、預け入る
婿嫁身用の内金五圓の内子に消
す、外に三圓八十二圓年末仕拂の内金
内子に交付、田村院有り件有り、此日
と節の謝礼を走心、謝物大納を元
菓子一函と納る、南の儀本部の圓書
之旨に依りて、同院圓書と納る、此由に
山梨福川平入本康照字典四十冊あり、今
川小路月巻に致して之を、山を去る

十日は、美神湯、昂十圓、原精地、昨日同
伴、山口地、養生館に、電報を以て、室の
入を為す

十日

晴、雪後、寒き氣、漸烈、屋上、堆雪凍つて解
けず、加賀田、以て、十日、依りて、江白絹を
め、持老を、細白、其、行、紙、和、紙、在、平、坂、に
仁一印、赤、字、あり、紅、白、俵、末、原、あり、
これ、是、が、也、と、中山、の、小、滝、降、く、山、度、代
金、五、十、圓、送、付、十、時、昂、を、付、せ、り、此、由

よく出る、又うき舟の質、自動車に乗る、
汽車中、サボウエチと、山の大船、又
船め、と名おき、の、と、他、笑、二、笑、
一時、四、府、津、着、ん、と、山、原、と、汽、車
新聞、を、お、好、め、と、通、こ、一、時、四、十、分、山、原
駅、着、ん、と、海、原、着、ん、約、十、七、八
町、城、隍、を、沿、り、行、く、此、迄、別、荘、連、差、櫛
比、夷、田、と、此、地、と、呼、ん、と、名、城、迄、と、ぬ、る、
と、ま、ま、初、め、也、春、生、館、山、原、東、一、の、説、館
と、ま、ま、こ、こ、に、室、の、設、備、着、備、高、か、ら、ま、ま、
と、ま、ま、後、の、ま、ま、一、衣、ま、こ、他、室、と、離、隔、し、

日ありよし、温暖、山、春、の、何、寄、り、も、也
都、の、東、市、の、近、り、佛、堂、と、談、こ、ま、名、物、と
然、り、借、り、て、市、街、と、出、散、策、お、真、の、後、計
浦、鋒、等、を、踏、り、四、時、半、に、氣、温、を、換、り、
二、五、十、二、百、也、

十一の

明、山、の、春、生、館、こ、朝、七、時、寒、暖、計、四、十
七、分、翌、朝、後、涼、を、二、倍、詳、し、と、海、を、観、り、
と、ま、ま、十、四、日、卯、の、文、付、体、量、を、換、り、十、三、貫、
八、百、目、也、此、地、十、時、迄、と、名、の、二、十、一、度、午

各余(後)車乗之切ると(十二時四十分の汽車)
し流金をとるなり、即ち停車場へ見送る。偶
々矢吹河を越え、根方面より自動車と配
り停車場に到着、即ち同車にて三時十分
中央停車場に着、又自動車とを共にし
物置へ出、出版部へ、並汽原動機二冊
配本を受く、早稲田中へも、本年より
分寄附するの背任状あり、在北海道和
水毎平より、駐卯一掃を乞ひ、来る奥の宮
花より、正宗を打と好む。

十二日

頃、西条舟着く頃、時を報ず、且つ
祝儀を送る、矢吹く山状を乞ひ、多賀
昌士も四五の清在に、積りて少田原岸
方へ行くの物を、為持十一時、こし汽
車へ乗る、奥の宮谷村一太郎も、クキ
漬と贈る、奥の宮、花園の湯、自派
三田、こし、船と繋ぎ、世に清の毒成
より、来出、昆田、耳、雨、降り、出つ、七、七、
琳瑯、各、園、寺、と、嬉、ひ、二十三日、拂、五、時、
築地、物、着、船、に、移、け、る、加、ら、四、武、統、
時、投、宿、各、に、臨、む。

魯天、と乳光子を出迎柳の海を至五十四品
持を、と園の法婚、韓儀淑徳也、其時中
大り、と来也、貯物、貯り、と、と、と、
靡、と、換持状判る、古池、高久隆古の香局
由、瑞午、児を、数多、に、回換、お、七、持、是、
入、其、草、由、六、五、二、幾、色、三、十、四、法、海、真、
此、桂、次、印、と、換、引、と、娘、と、故、五、五、年、
其、法、終、と、関、大、り、と、多、う、祝、お、と、贈、と、
其、似、乃、報、の、法、海、と、と、と、と、と、と、
と、は、授、(関、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

素脚田村来、文の場、今年、来、し、と、を
て、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
の、如、く、説、法、を、聴、也、と、一、時、と、と、
リ、罷、也、内、子、寸、寸、と、其、時、分、と、行、と、
と、贈、ん、と、法、方、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
文、の、場、也、其、年、也、刊、の、海、法、集、也、
と、ん、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
也、
也、
也、

西風、云原唯、往村、市村、英、捕
其功、坂上、為、注、射、事、祝、物、を、贈
る、直、つ、崎、村、谷、村、一、た、ら、く、寺、村
を、見、り、光、を、傳、へ、高、田、を、訪、わ、し、謝
意、を、表、す、白、お、二、年、と、言、ふ、絹、糸、一、つ、お
輕、吊、一、懸、を、送、る、上、中、表、承、次、を、承
せ、不、公、鎮、之、地、を、か、う、え、こ、を、贈、り、来、り、
昂、と、し、来、也、村、に、お、店、跡、宅、四、十、五、回、掛
滿、り、出、り、坂、に、五、年、奉、り、坊、由、お、倉、并
二、日、中、に、端、を、見、り、其、時、往、味、知、り、
り、来、也、望、に、多、由、を、天、と、出、京、張、也、

酒一瓶を贈る、四時、己、六、次、大、崎、来、り、
置酒、初、り、入、り、お、を、贈、り、出、り、柳、子、を
来、り、

十五

町、山、田、河、原、基、木、光、森、脚、美、附、来、
預、文、行、本、に、山、梨、輪、川、手、津、を、原、照、玄
典、四、十、冊、代、七、十、六、回、五、十、九、拂、通、今
津、意、崎、を、来、也、結、婚、を、祝、物、を、受
け、り、諸、家、に、送、り、給、り、お、包、り、を、送、り、
心、田、原、昂、と、し、来、也、お、福、利、を、産、平、と、し
塩、引、大、お、を、通、え、一、来、り、三、時、と、し、品

印刷多し、別々賞典を以て、梓部より、洲
布を施し、山々々々振付けり大換楯を以
る、寸本題者録、栲亭の酒徳、命を
抄録す、暖言昂々の原を、均着、大江乙
亥門と、結時祝不刊也

十一百

明、久江集、一車強且物を贈り、先子を以
へ、此想、も、を、経、文、行、を、二、二、の、因、を、を
購、心、海、州、一、波、分、局、一、池、洋、の、威、産、院
を、購、心、北、價、三、十、日、也、金、四、に、飲、了、法、勅
言、去、を、免、初、ま、り、物、を、預、り、大、彦、松、父

清松り、弘、利、り、由、子、今、の、後、上、弘、花、方、
行く、沼、射、海、儀、五、十、日、お、こ、時、記、母
祝、物、通、記、名、持、夫、也、加、り、四、至、三、印
外、二、三、家、一、等、考、考、考、考、一、海、帝、國、
る、在、統、廿、日、日、前、平、夜、多、る、也、如、來、る

十七百

明、古、地、書、三、也、書、を、持、來、り、る、亦、如、山、人
大、井、川、の、書、一、幅、五、幅、一、幅、一、幅、白、衣、大、士、一、幅
を、購、り、江、部、漢、夫、一、幅、一、幅、一、幅、一、幅、一、幅
其、の、購、入、を、依、託、す、素、脚、或、功、文、明

協會賛助の旨を以て暮集るるに在りては、
と報す、其時於て初より拍を拍する
後二時之の協會する務を以て別り職あり、
此を海す、三時内亦入言んを日辰
礼に於て、初より自平北海道より出衆す
ゆ、ゆ梅月、文の協會の務ありと
一と忘るるを以て一場の訓示演説
を為す、此後於て後より、五色論の法
論を以て手録す未だ終行に及ばず、
未亡人奉功拍を拍する、炬燵の
塩竈焼の焼を拍する、此の村口書店よ
リ二三の巻を拍す。

十八日

雨、小林堅三來談、内子日記の
印編註、塩引持参、城の南邊に
郡東村浄光寺、駒形寺の善く、
出拙をを需む、三枚を大らし、
印刷會社の學堂會に於て、
予を協會す、在桑城、
東也、内子の日記の根持るる、
割と行く、午後五時、麻布の園に於

今日一日

かゝるもの門生格系に音も余りの家
に親しむものありの又も然るに
三人来る、席上余所懐を陳ぶ、此方ニテ
所の是曆の案を述べて、形式一編
の漢説のありたるを、赤保々の説話を試み
清うて江都、昆田、杉井、山田、大江、等文、
余の改定を親しむ徳の漢説を有し
山田、石塚、方人、余の肉子、親しむ格場
する所あり、山田、録う感々を、愉快を
覚え、九時、自動車一を、駆りて

へる、石塚も、祝品(結婚)餅米、
すし、子を贈る、方命をまぐ、おれを
かす

二十日

風、今朝拂曉、強きあり、北風、吹く
昨年、冬、の、雪、を、か、た、す、吹、く
十、年、前、の、赤、脚、月、の、文、の、場、を、も、
の、接、接、し、七、十、日、の、来、る、多、く、
し、し、出、る、を、も、友、人、が、二、八、を、三、
つ、ま、あ、ま、ゆ、を、か、す、十、一、時、に、出、

三刊り、講義録編輯會：信玄、江部を以て
其の同人を以て、信玄、江部を以て、
辭退する見念とあり、関白の御成
寄御上は、大隈茂忠の御成、
兼、大隈茂忠の御成、
兼、大隈茂忠の御成、

二十一

所、文の御成、信玄、江部の御成、
狂態を指す、信玄、江部の御成、
校の御成、信玄、江部の御成、
余の選、信玄、江部の御成、

を以て、信玄、江部の御成、
云々す、和園維也郎の御成、
信玄、江部の御成、
午後の出陣、信玄、江部の御成、
在印集を以て、信玄、江部の御成、
刊り、印別會社の御成、
八分都念二刻とあり、
信玄、江部の御成、
し、信玄、江部の御成、

車を繋ぐ下谷の伊勢織に列う飲わ、
仙後天新に入り天鼓羅を吃らえ
之より印刷分社より高島興金を七千九百
圓を交く

二十一日

明、赤坂家主督、御宅に訪る三田めお
老より前田送ゆ、御宅に五十圓の奉儀を二
十圓拂給、古池業三三、古画物代百五十五
圓拂給、横上弘義は、射を施し七五、因原
権之助、場方の件を、並木元七、日掛、しる
、村某、詔、十一時を、出む、元七、世、神

田舎、一二のむ、店を、幼い、物、舟、米、に、物
を、贈、ひ、ま、い、る、御、宅、に、出、る、元、子、の、あ、の
物、を、贈、ひ、給、長、に、飲、し、七、物、つ、る、御、役
、元、成、系、三、三、三、の、友、に、年、暮、の、挨拶、
し、し、七、御、宅、の、如、く、乾、飯、甚、甚、と、お、包、こ、
て、お、り、ま、す、と、す。

二十二日

明、真路中、お、り、く、ゴ、ル、ド、ン、古、人、一、若、一
冊、贈、る、合、計、八、一、と、し、十、年、を、此、迄、贈、る、
に、お、板、敷、り、お、云、々の、説、の、を、お、り、ま、す、と、

カ公儀しゆしきもむ前報の如き銀の
運曆祝賀に會し得たりしと遺儀
りし物を贈る事あり来る。其の時成
らし此物もあつて物を考へて海を利す。
大崎油(元)買入八十圓押通、其の時
次郎く夫吹家としての祝物も包まはる
返す。石塚に謝状して及物を交へる人
を備ふて掃煤を行ふ。四谷南寺町
中川殿(柳町)に此物押通を頼むに
了。此物ともかゝる。和の儀即ち其の二月午
後其の告別式に臨み、松文書来る。雜木

幼室のゆききし決満、十倉もも継継子の
世布園を贈り来る。此の松井郡次郎
海軍を贈る。光子を付の銀は二割
兼リリスマスの用品を購ふ。日清印
刷會社南助配申三石山田家義
分九十石山田領收。南唐振港法然
墓石を購ふ。

二十四

明、旅家の表を不才の功の百托し、小
西冊増えたり。おききり。此、成二十山を

其種射馬法、其時桂次、其時就
し、結婚、付贈養を云々、梅原精一
其の自著、目録、南書史を贈る、其
三、印集の配を乞ふ、其の拂込、先
子もは、其の外、出生にクリスマス、用名
を購ひ、其養に、銀一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

二十五。

所、廣井、西村直次、森岡美村、其の
廣井、其の記、其の印、其の年、其の交、其
外、其の印、其の持、其の刻、其の料、其の
三十、其の年、其の分、其の時、其の
印、其の多、其の利、其の事、其の物、其の
其、其の事、其の物、其の使、其の利、其の
交付、其の料、其の銀、其の果、其の物、其の
其、其の事、其の物、其の使、其の利、其の

續千形とて道長を祀り、舞臺に干
段殊形(各)を飾りて清り、御堂四六
間五丈敷拂儀、須臾彦松又死云看
吊状を給ふ事典とて送る、夜より常四
道修社より、院舎法藏の形、油印を七
とめ来る、新株八十余引受合儀り
こころ澁浦印す、但し、竹村より又と協
藏の上法定に云

二十一日

町、市田通に社、新、小川降一より

其也、清中、毒城、清、此、桂、香、こ、之、状、を
見る、沙、河、石、塚、中、に、お、村、を、り、か、る、矣
吹、こ、し、ま、ま、と、田、村、霞、河、の、ま、り、物、物、を
貯、り、る、者、今、高、白、強、一、の、一、直、行、之、廿
五日、お、お、下、め、を、ま、り、る、事、即、寺、塔、元
寺、も、物、を、貯、り、る、松、井、郡、流、の、息、来、功
悔、を、と、頼、す、午、後、出、游、和、香、の、物、を、お
米、肉、を、懸、ふ、い、谷、仲、所、の、松、木、高、原、に
和、香、を、お、お、物、を、お、お、文、深、(回)
あ、ま、を、依、乾、す、又、吹、枕、成、男、子、有、改、地
お、口、中、ま、り、丹、美、原、平、を、境、引、を

始

二十七

明・後を専ら社政に仁一印を求む。坂江と午
嶽を興ふる。小西帖を出し、詩書を講ふ。
唐井來功、帝回通に社政株五十余の
名義分の内北張社引受を托し
説してある。山田清徳、來功、皆内通し
進む。新刊「延喜式」の進儀を記す
る。帝回通に社政株を興ふる。田村喜三郎
今しる。社政を興ふる。佐藤伊助を興ふる。

を興ふる。三郎と云ふ。古くは、
老千圓也。却て社政株を興ふる。善入豆
き。石油株額面且る。圓引元。森陽合
の法界。三村。社政、為來。又、各方面。社
政。社政。社政。社政。社政。社政。社政。社政。
社を興ふる。久吹親戚。社政。社政。社政。社政。
社を興ふる。社政。社政。社政。社政。社政。社政。社政。社政。
社政の社政。社政。社政。社政。社政。社政。社政。社政。

二十八

明・平浪源印。社政。社政。社政。社政。社政。社政。社政。社政。

崎桂治の娘、物を送る、海を舟で、舟城へ西料
 三十日郵送す、由みく、壬午五月十日、年未費
 用減す、高山水降、とて、炭五十九法、送
 り出し、崎治の報を多く、例年に過り
 餅と揚ぐ、大隈信孝も、例年の福酒を
 贈る、吉田春太郎、馬治且、物も贈ら
 る、赤坂大隈、海軍も、又、坂
 崎川、尾大隈家、壬午、十一時、克子
 日付、出さ、於、重を、勅定、廿五日、五、大、物
 海、凡、月、重、に、致し、海軍、行、き、海軍
 局、の、勅定、三十日、清海、果、法、年、未、費、を

崎治、壬午、四月、終、に、改、動、す、と、し、親、狀、を
 今、物、書、石、塚、之、中、に、送、り、し、也、此、列、の、
 余、之、如、此、紀、念、名、を、贈、り、ん、と、暮、り、海、軍、
 至、親、八、万、四、千、由、此、

- 壬午四月 加賀川上流
- 壬午四月 舟を多く
- 壬午四月 杉本弘
- 壬午四月 石塚之中
- 壬午四月 江部清大
- 壬午四月 大江乙三
- 壬午四月 山田尚心

古傳和文三三三と大あ子面を越利其
空を多由十巻の二可貯るを銀具酒の瓶
を辨るき如めを銀む教合を列瓶と名
り云吹と題す

二十九

吹古池井言紙柴一版を涼くし末の蒲酒
の味をまよし即婚入價四十圓也。坂上弘亮
才より江射と施す。和田為桂者才より有
畫出しと回書か。お儀らるる。とす。まよの

由と題す。久月口云吹とも物と題す。
あ方とす。銀具酒を巻す。和田時を夕
針とあめと題す。おらと題す。

三十

吹、石塚とす。さき色紙に念巻磁を
いろゆとのあるゆ也。先づとす。まよ
下村正ちらり。清野。毒成とす。まよ
光子を付の云吹の親族の男。打石
吹。知を部の人。石生とす。人。念。一。其。に
解し。中。兜。大。一。し。し。一。ン。に。物。有。吹。

十二のものをとく、電氣のものを貯蓄して、田舎の
子のあつた物を畑に植ゑて、儲けて置く。
と、新橋橋早稲田方面の火災は、百十
四のものを儲け、貯蓄物のことを、貯蓄物の
出づ、イリ、正、大、子、在、大、津、一、印、を、是、其
信、中山、舟、川、津、隆、一、と、是、炭、五、十、徳、利、也、
下、村、心、ち、ら、し、石、炭、三、印、と、同、す、長、思、也、
銀行、支、店、と、ま、ま、五、印、の、田、為、貯、蓄、分、部、
又、特、別、高、中、貯、蓄、と、す、ま、ま、五、印、也、
ゆ、子、田、津、船、の、老、年、同、部、入、り、の、引、
出、す、と、は、甚、難、の、田、也、吉、集、に、送、り、一

函を物々申す、と、持、つ、得、る、僅、に、は、収
あることを得、久、一、時、不、用、と、す、
十の昔、物、集、に、没、立、し、元、を、お、く、
百、六、次、者、三、本、口、置、酒、法、部、
真、
此、桂、酒、の、一、と、ま、ま、也、

三十一日 隆和

朝、身、雪、宛、に、平、山、系、一、金、銀、多、目、出、書、
代、の、四、冊、原、三、本、武、吉、久、江、等、一、本、
今、置、る、と、我、れ、本、林、崎、の、貯、蓄、分、部、
函、を、冒、し、し、り、と、持、出、せ、行、き、物、を、
贈、り、送、り、奉、儀、と、す、ま、ま、電、氣、依、貯、し

つぎの書帳につきまゝしめる、雪降り
積り、庭樹枝無人、雪を拂ふこと一回、午後
家よりと理す、山山紅泊竹木降一息
三十来、(かた)のあまの刻、
北朝

大正元年日誌の尾に録す

本年亦如く本年殊に日誌の紙枚多し、平年ニる枚内かの多きを本年のニる枚を出し、清韓旅行の記事ありう所也

本年八月迄の日誌の終に四月迄に重要事項を略記す、こゝより九月以降の概しを要する項を略するのみ

十月中文的編寫し方と大隈家の處つとを測り、来年に於ける経費の為

の宣係通也。幸に此旨効あり、
後おふ終るの旨集こ度す
るもの多く、二ヶ月納りて二番用
上を暮り得たり。来年、
之ニ兼用し終る亦よし。改く
中其安にせしむるを、
溜めし

本年下半、
余の閑係あり印刷出版
有の好成績あり印刷
早稲のたみ出版部
社

割の配当を得たり
本年下半、家慶の
二女久を男爵久吹者
と嫁せしむるは、
家こゆつ、由身二
リしが、漸く婚嫁
と離れし六人の
嫁せしむるも、
望みのも十二月
く、此の家慶の
十月以来に殺

内なるを殊に極劇を極めし

本年余の年齢を暦に丁と云ふは
のわりの祝宴を催す三回のみ
に余を幼る俗例を厭ふもの
なり終に辭し難く其宴に
臨みし最後の存を余の家
庭にありし門生格の面々
が記し物に親也の事
み合ひし祝宴を余も
念名の始末も多し

本年一月に家出重忠に
羅うはまの回復に向つて
あり余夫婦坂上の注
財を持懐のため大に
得しと得しと概して
本年を目出と算し
謂ふを得べし

本年程多くを考へし
はるを海に旅行し
三千円以上を投し
又婚嫁に二千五百
圓を考へし
年末迄の費用三千
圓に及ぶ
と特におの事ありし
幸しと云ふ
年関係事業
成切の
負債を
記すこと
業に
無ん

信時
野見と支那一得考

